揖斐郡教育研修センター通信　⑧　R3.8.23

揖斐郡教育実践論文に取り組んでみえる先生方に

Ⅰ　令和３年度実践論文について

本年度は「揖斐郡教育実践論文」に郡内の多くの先生方から応募いただき、「教育の基本的な課題をふまえ、小中学校の教育現場に密着した継続的・累積的な実践研究論文の募集及び検証を通して揖斐郡教育の振興を図り、教職員の専門性を高める。」という実践論文の願いに基づいて、取り組んでいただいております。

今回のセンター通信では、そうした実践の参考になる資料を紹介させていただきますので、現在進めていただいております実践や、論文をとりまとめる際に、また実践論文に限らず各校で教育活動を行う際の参考にしていただければ幸いです。

（１）実践論文の評価の視点＝実践の検証・論文執筆の視点

岐阜大学の実践論文の評価項目は次の内容であり、これがそのまま、自分の実践の検証や実践論文の執筆の際の視点になります。

	自分の実践の検証の視点及び論文執筆の際の視点	自己の論文の評価			
1	教育の今日的な課題を踏まえているか。	◎	○	△	×
2	解決の方向が明確になっているか。	◎	○	△	×
3	願う子どもの姿や指導意図が明確になっているか。	◎	○	△	×
4	指導方法等は明確になっているか	◎	○	△	×
5	児童生徒の成長や変容がよく表れているか	◎	○	△	×
6	研究及び実践内容に創造性・妥当性が見られるか	◎	○	△	×
7	説得力のある論述がなされたり、事例が取り上げられたりしているか。	◎	○	△	×

（２）過去の実践論文の優秀作品で、自分の実践論文の参考にできる点

（参考　教育実践研究　入賞論文集　岐阜大学教育学部同窓会編より）

①　＜事例①　社会科の実践＞

- 研究テーマ：よりよい社会の実現を目指す子が育つ社会科学習～社会への関わり方を選択・判断する授業を通して～

＜実践を通して目指す児童の姿＞

- 社会と自分との関わりを感じながら、その関わり方を選択・判断する姿
- 必然をもちながら、自分にできることを実践したり、身の回りの社会を見つめる姿

＜具体的な実践で大切にすること＞

- 社会に見られる課題に対して、自ら関わろうとする思いの醸成、社会を見る目の育成、具体的な行動の決め出しの３点を大切にして単元構成や授業づくりを行う。
- 社会への関わり方を選択・判断するベースを作る単元のあり方を工夫する。
- 多角的に考えたり、社会へのかかわり方を焦点化したりする単位時間を工夫する。
- 社会に関わることに必然性や具体性をもつことができる指導・援助を工夫する。

この実践に対する講評

- **社会への関わり方を選択判断していくための単元構成、授業展開と社会に関わることに必然性や具体性がもてる指導・援助の工夫がよりよい社会の実現をめざす児童の育成につながった実践である。**
- **これまでの自己の生活体験や認識を見つめ、社会への関わり方を吟味する児童の変容が、抽出児の記述や関わり方調査による検証から明らかにされており、説得力がある。**
- **構成としてまとめられた内容は、他単元の汎用も期待される。**

② ＜事例②　国語科の実践＞

- 研究テーマ：言葉による見方・考え方を働かせ、伝えたい思いや願いを表現する「書くこと」の指導
  ～ふるさとのまちづくりを題材としたカリキュラム・マネジメントの活用～

＜具体的な実践のための視点＞

■伝えたい思いや願いをもてる題材の工夫

- 教科横断的な言語活動の工夫
- 指導事項や言葉による見方・考え方を具体化した単元構想

■言葉による見方・考え方を働かせ、主体的に表現するための指導の工夫

- 言葉による見方・考え方を働かせる読み書きの関連指導
- 言葉による見方・考え方を働かせ、主体的に働かせるモデル文
- 自分の考えをメタ認知し、よりよい展開・構成をつくる構想メモ
- 書きながら修正する下書き
- 多くの考えに触れ、自分の考えを広げ、深める交流の場

対する講評

- **他教科との関連を図った学習内容や言語活動の工夫により、生徒の書くことの力を高めている実践である。**
- **CTT 学力テスト及び意識アンケートをもとに生徒の実態を捉え、言葉による見方・考え方を働かせることができるように指導方法を工夫することで、生徒の変容が明確に表れている。**
- **ふるさと教育の視点を踏まえた題材の設定やカリキュラム・マネジメントの実践例としても大いに参考になる実践である。**

特にこの２つの実践で参考にすべきキー・ワードとしては

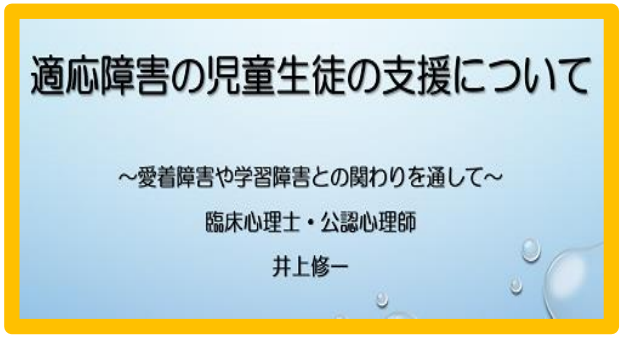
よりよい社会の実現や夢の実現をめざす児童の育成につながる指導・援助の工夫
児童の変容が具体的なデータや数値をもとに検証されて明らかになっており、説得力がある。
他教科との関連を図った学習内容や言語活動の工夫により他単元や他教科への汎用が期待される。
生徒の実態を捉え、児童が活躍できるような指導方法が工夫されている
教科の指導において、ふるさと教育の視点やカリキュラム・マネジメントの視点を取り入れた単元構成や単位時間の工夫などが積極的になされている。

実践論文に関するスケジュール

締め切り　令和３年１１月２２日（月）
揖斐郡教育研修センター担当あてに紙媒体及びデジタルデータの両方を提出する。

- 第１次審査（令和３年１１月３０日(火)）入選候補作品の選出
- 第２次審査（令和３年１２月　３日(金)）入選論文の決定と、「優秀賞」候補作の選出

Ⅱ　教育相談に関わる校内研修資料について



夏休みには夏期研修において研修Ⅰ「教育相談について～コロナが及ぼす心理的影響」及び「研修Ⅱ～夏休み明けから使える ICT 活用」について各校で校内研修に取り組んでいただき、ありがとうございます。各校から送付いただきました夏期研修に関する学校集計票をもとに、研修の成果と課題及び次年度への方向をとりまとめ後日送付させていただきます。

さてセンターでは夏期研修Ⅰでもお世話いただきました臨床心理士・公認心理師の井上修一先生にご指導いただき、教育相談のための研修資料として「適応障害の児童生徒の支援について～～愛着障害や学習障害との関わりを通して～」を作成致しました。すでに DVD で各単Ｐの研修資料として配付させていただいておりますが、各校での校内研修用としても有効なものですので、ホームページの夏期研修のためのページに８月２３日に新たにアップ致しました。　各校で「発達障害や学習障害について」の研修を実施する際にぜひご活用ください。

※資料は揖斐郡教育研修センターのホームページ（http://www.ikedanet.jp/ibikyouiku/）のは左側の「夏期研修資料」のリンクをクリックしていただき、パスワード「hitotu」を打ち込んでご覧ください。